

地域まちづくり計画

20年先まで住み続けられる街づくり

令和元年11月

丹後町徳光区

目 次

| はじめに | 区長 |
|--------------------------------|----|
| 1. 徳光の歴史 | 1 |
| 2. 徳光の現状と課題 | 1 |
| (1) 年齢別人口の推移 | |
| (2) 産業別人口の推移 | |
| (3) 商業 | |
| (4) 防災 | |
| (5) 交通機関 | |
| (6) コミュニティ活動 | |
| (7) ひとづくり | |
| 3. 地域づくり推進計画 | 4 |
| (1) 住みやすい環境づくり | |
| (2) 地域の特徴を活かしたまちづくり | |
| (3) 健康と福祉のまちづくり | |
| (4) 20年先まで住み続けるまちづくり | |
| 4. 実施計画 | 6 |
| コンセプト：「まずはみんなで考えよう 住み続ける徳光であれ」 | |

【はじめに】

今年の春をもって「豊栄小学校」が廃校となりました。以前から少子化の波の中で、懸念されていたことであったものの、地域の人々にとっては大きな宝を失った感があります。複式学級という現実を直視し、ほぼ全員と思える親が子供達の教育の観点から積極的に賛成している姿を垣間見れば、地域の人々は静かに見守る以外の選択肢はなかったというのが現状でした。

平成16年の京丹後市合併から行政区域が広域化し、行政運営の合理化が進められ、行政サービスの在り方が変化してきました。行政主体から地域主体へと活動の在り方にも変化が見られ自治会の主体的な活動が求められています。

年号が「平成」から「令和」になり、地域の中には何か目に見えない期待感が漂っているようにも思えますが、現実には、今までと特に変化を感じられるようなことはありません。

少子化・高齢化が加速度的に進行する徳光区において、これからのコミュニティ活動は如何にあるべきかを探るため、中堅といわれる世代の区役員で将来の姿を描き、主導的に自治活動を進め、空き家対策など新たな課題も抱えつつ、前を見続けなければなりません。自ら暮らすこの街に愛着があるからこそできること、しなければならないことと考えつつ、計画を作ってみました。

計画の中には、今すぐ出来ることから遠い将来の可能性を追求することまでありますが、目標は「20年先まで住み続けられる街づくり」です。

自分の子への世代交代ができるまで私たちがこの街を維持していくためにどうしていくのか、思いを込めてまとめてみました。是非、ご一読いただき共感されんことを願っております。

令和元年11月

徳光区長

1. 徳光の歴史

(1) 経過

当地区は、竹野川東側に「徳光村」として存在し、西側の成願寺を含む八木村に相對していました。古くは弥生時代の古墳文化の発祥が伝えられており「椿原古墳」「高山古墳」がそれです。高山には水が湧き出る場所があり、当初ここに住居を構えて、石原、大土地区へと移住していったものと考えられています。石原地区の山腹にお城があり、約350年続く城主が納めていたようですが、戦に敗れ残された農民が残された田畑等を受け継ぎ、生計を起てていました。

また、別の文献では、徳光村は大きく、現在の徳光、成願寺、大山、三宅からなり、大正三年末現在戸数270戸、職業別では農業220戸、工業23戸などで人口が1366人と記録があります。

その後、徳光村と八木村が大正14年に合併し、豊栄村が誕生しました。

昭和時代の前半には、織物業が入ってきてそれで生計を立てる方が増加していきました。織物業従事者は、収入が多く、農村から都市並みの生活へと地域の生活を変えていきました。

それも、昭和時代の後半になると陰りを見せ、また、大学への進学率が増加していく時期でもあり、若年増が都市へと流出が続く時期を迎えました。このころから、人口が急速に減少していきました。

現在もなお、人口の減少は続き、田、畑の管理や、道路、河川の草刈り、コミュニティ活動の存続など地域機能の維持、管理が出来にくくなってきています。

2. 徳光の現状及び課題

(1) 年齢別人口

若年層の人口減少が顕著に目立っています。

原因はさまざま考えられますが、別紙アンケート結果によると、①買い物できるところがない。②インフラ整備が遅れている。③交通の便が悪い。④若者の働く場所がない。⑤小児科をはじめ医療体制が充実していない。などがあげられます。

さらに、生産人口比率も減少しており、村の機能の維持が危ぶまれるところまで来ています。

一方で、高齢者の比率は増加しており、高齢者の介護が大きな課題になっています。

(2) 産業

現在の産業別の従事者は別表の通りです。

特徴の一つとして、農業従事者の変化が著しく、一方で農地面積の変化は少なく農地の集約化が進んでいることが理解できます。

次に、地域の一時代を築いてきた製造業の従事者も激減しています。それに比べてサービス業、福祉関係の従事者が増加しており、変化があることが、見受けられます。

その他の産業従事者は全体的に人口が減少に伴い少なくなっていますが、構成比の大きな変化はありません。

丹後町を代表する域内の企業や京丹後市、宮津与謝地域の多くの企業が青壮年の雇用の場を創出しており、当該企業を中核としたものづくりの広がり、今後も大きな期待がありますが多様な雇用の場が必要です。

また、元気な中高齢者対策につながる、生き生きと身体を動かす体力に応じた労働の場が求められます。

(3) 商業

3年前、小規模ではありましたが地元豊栄地区に残ってきた食品スーパーが閉鎖しました。日常生活に必要なものを5キロ以上離れた隣町まで買いに行かなければならなくなりました。若年層は自家用車で移動ができますが、年配者にとっては移動手段がなく、公共交通機関も不便で買い物難民層の増加が懸念されています。

(4) 防災

徳光区は、竹野川に沿って住宅地が広がり、住宅地のうち特に橋本地区は田を埋め立てて造成した低地であり排水が悪く、降雨のたびに道路が冠水し、住宅への浸水被害がたびたび発生している。

また、台風時には、南斜面に風雨が打ち当たることが多く土砂災害の発生も起こっている。

ため池も多く抱えており、維持管理が不十分な個所も多く、万一の場合農地はもちろん住家に影響があり、日ごろからの対策が必要である。

さらに、集落内の幹線道路が狭いため、積雪時にはたびたび交通渋滞を起こしている。福祉避難所になっている集会所の海拔は10.5mと低く、集落内のほぼ全域が危険区域になります。

旧豊栄小学校は最も遠い住宅から3キロ離れており、市指定の避難場所ですが、高齢者、要援護者などの避難対策が課題となっています。

(5) 交通機関

集落内は、定時の公共交通機関がなく、ほとんどの住民は目的地まで自家用車での移動を行っています。

通勤、買い物、病院移動するにも、近くのバス停まで最大2キロの道のりを徒歩で移動するしかありませんでした。近年、地域公共交通事業が始められたことで、移動手段はできましたが、事前申し込みが必要など乗車が少し煩雑で、利用が伸びておらず、移動手段に困っている方は減少していないのが、現実の課題となっています。

超高齢化集落の到来が予測される中で、積雪時や暴風雨を考えれば玄関近くまで車が入り、車庫を持てるような道路計画が必要です。悪天候の救急搬送は尚更のことです。

(6) コミュニティ活動

地域の祭りやイベントはほとんどが継続されていますが、そのことに携わる人の減少で、今まで通りの継続が困難になっています。

今すぐの可能性は考えられませんが、将来にわたり、地域住民が、移住者が、定着する最低限の条件の一つであろうと考えられます。元気を作る源と考えられます。

独居老人世帯、高齢夫婦だけの世帯が増加しています。高齢者が健康で生きがいのある生活を送るためには、培ってきた知識や経験を発揮できる社会活動への参加が求められます。老人大学のような教養講座の声があれば、集会所には足の不自由な方でも座れる「思いやり座イス」の充実を図る必要があります。

身体を動かすことこそ生きる楽しさを実感できる喜びです。元気に生き生きと暮らす中高齢者づくりは、元気な竹野を創り出すための扇の要です。区民総参加のまちづくり活動や旧豊栄村全域に広がる公民館活動で創意工夫を凝らし、生きがいづくりへの取り組みを進める必要があります。

若者や女性が地域活性化の担い手になり、地域全体が積極的に参加する体制づくりが必要です。

徳光区のような超高齢化集落では、ボランティア活動や区政に女性の参画を得なければ何事も進みません。そんな時代が来ています。

(7) ひとづくり

地域づくりに情熱をかける人づくりが必要です。地域で考えられるのは、高齢者と青壮年の交流の場を「ひとづくり」の現場にする取組です。青壮年は高齢者の知識と豊富な経験を見聞し「年配者は凄い」と尊敬の気持ちを抱

くようになります。年配者は青壮年の発想や行動力・パソコンを使いこなす姿をみて「最近の青壮年は凄い」と後輩に敬意を抱きながらITを学びます。先輩は後輩から、後輩は先輩からお互いに学び教え合ううちに、地域の中に信頼の絆が深まり、集団の中で一人ひとりが成長を続け、リーダーシップを持った人材が育ちます。教える教育ではなく、互いに学び合う共育の場づくりを必要とする取組です。

定例日に集会所を開放する試み、碁会の日、将棋の日、パソコンの日、万王さんの歴史を学ぶ日、遺跡を調べる日、土砂崩れを知る日、過去の台風被害を書物に残す日、風俗習慣を伝承する日等々幾らでもありますが、要は、老・壮・青が集まろうとする環境づくりが出来るかどうかにか成否の決めてがあるように思えます。

子どもの虐待や犯罪がマスメディアを賑わせ、社会現象のようになっていますが、都会で起きている現象は何時でもこの地域にも起こり得ることと自覚する必要があります。徳光には15歳以下の年少者人口は本当に少なくなりましたが、子どもたちの健やかな成長を育むためにも、地域の中で人と人との繋がりを深める交流の場づくりは、とても大切なことではないでしょうか。

3. 地域づくり推進計画（明日から将来に向けて）

1) 住みやすい環境づくり

1-1) 道路交通網の整備

- ① 交通安全施設の整備（カーブミラー）
- ② 市道の舗装改良・側溝整備
- ③ 狭隘な集落内道路改良

1-2) 生活環境の整備

- ① 光ファイバー等の情報網の整備
- ② 下水道の普及拡大
- ③ 集落内下排水路の水質汚濁防止対策

1-3) 美しい集落づくり

- ① 花いっぱい運動の推進
- ② 桜の木の植樹
- ③ キレイ運動の推進（浜掃除・空き缶回収・タバコのポイ捨て禁止）

2) 地域の特徴を生かした集落づくり

2-1) 農地・山林等自然環境の保全

- ① 農地・水・環境保全事業の推進
- ② 旧簡易水道新津水源の保全と効率的な利用
- 2-2) 都市農村交流事業の推進
 - ① 農業と観光連携による都市農村の交流
 - ② ジオパークを生かす取組
- 2-3) 漁業を海業にする取組
 - ① 専門の海業者の応援
 - ② 共同利用施設の整備
- 3) 6次産業の集落づくり
 - 3-1) 農業の基盤づくり
 - ① 耕作放棄地の防止と農業後継者の育成（生産者の気概の充実）
 - ② 農家組織・農業グループの育成
 - ③ 圃場の団地化の推進
 - 3-2) 農業の振興
 - ① 観光農業を基軸に置いた農業生産活動の推進
 - ② 直売所・共同利用施設の整備
 - ③ ジオパークを利用した6次産業の取組
- 4) 健康と福祉の集落づくり
 - 4-1) 保健・医療の充実
 - ① 間人診療所・宇川診療所と連携した健康づくり
 - ② 公民館活動と連携したスポーツ教室の充実
 - ③ 京丹後市の健康推進事業と連携した健康増進活動
 - 4-2) 福祉活動の充実
 - ① 自助・共助の心の育成
 - ② 生涯現役運動の推進（高齢者の活力の発揮）
 - ③ 敬老精神の涵養（敬老会事業の参加率の向上）
 - ④ 災害避難時の弱者対策の充実
- 5) 文化を生かした地域づくり
 - 5-1) 伝統文化の活用
 - ① 秋祭りの継続
 - ② 愛宕神社参り・荒神さん・荒神社殿の改修
 - ③ お日待ち・三夜待ちの継続
 - 5-2) 史跡・歴史遺産の活用
 - ① 春日神社の美化管理

- ② 神社参道の清掃管理
- 5-3) コミュニティ施設の整備
- ① 集会所の維持管理・整備
- ② 便所、倉庫の改良・整備
- ③ その他の区有施設の管理・整備

4. 実施計画

コンセプト：「まずはみんなで考えよう 住み続ける徳光であるために」

どうあれば、今の徳光集落のまちの機能が残り続けることができるのか？
区民で考えていくことが必要と感じます。

若い年代を中心とし、自分が住み続けてもよい街にするには、どうすればいいのかを相談し、考えをまとめ、一つ一つ実現するための行動をしていきたいと思います。

我子が住み続ける街づくり（第1期計画）

- ・地域内生活基盤改善調査事業（2, 000千円）
- ・集会施設便所改修工事（3, 500千円）
- ・橋本砂防堰堤排水路改良工事（2, 000千円）
- ・区事務所事務機器整備（1, 000千円）
- ・地産地消推進野菜等共同販売事業（1, 000千円）
- ・区内道路改良工事（3, 000千円）

孫らが住み続ける街づくり（第2期計画）

- ・地域内生活基盤改善運営事業（1, 200千円）
- ・徳光区地区公園整備事業調査事業（1, 000千円）
- ・徳光区地区公園整備事業（20, 000千円）
- ・地産地消推進野菜等共同販売施設整備事業調査事業（1, 000千円）
- ・地産地消推進野菜等共同販売施設整備事業（20, 000千円）